

責任回避考えぬ

「水俣病を告発する会」の公開質問状への江頭チツソ社長
回答(全文)

水俣病に関しましては、先般来、三項目について質問が寄せられておりますので、これに対する当社の考え方を述べさせていただきます。

まず、第一の点「水俣病の責任がチツソにあることをなせ認めないのか」というご質問に對してお答え致します。水俣病に關しましては私共は、患者の皆さま方に対しては、まことにお氣の毒に存じ、また申し訳ないと存じている次第でございます。企業としての責任を強く感じてゐるものでございます。責任を回避しやうとするが如き考えは、毛頭ございません。即ち、ご承知のうちに、原因がまだ当社工場の排水に起因することが明らかでない段階でありましたのに、昭和三十四年十二月に熊本県知事の調停案を受諾し、患者の方々と和解契約を締結し、補償金ならびに年金をお支払いして

まいりました。

また患者の発生を見なくなりましてから既に十年を経過しておりますのに、本年五月には、水俣病補償処理委員会のご尽力により患者の大方の方々との間で再度、和解契約を締結して、追加補償金をお支払いし、円満な解決を図りました。これらは、すべて、冒頭申し述べました企業としての責任を履行しようとする考えに基づくものにはかなりません。一部の患者の方々より訴えが提起されておりますことは、円満解決を念願いたしております当社といたしましては、誠に遺憾に存するものでございますが、やむを得ず、法廷の問題として、これに對処している次第でございます。当社は、今後とも患者の方々に對しましては、誠意をもって、そのご面倒を見ている所存でございます。責任を回避する如きことばかりをめぐり

行なわない心算でございます。

つきに、「水俣工場を閉鎖するつもりか」というご質問にお答えします。このご質問に對しましては、何故このようなご質問が提起

されるのか、私としては、甚だ理解に苦しむところでございます。何故かと申しますと、水俣工場に對しましては、現に數十億の大金を投じまして、設備の強化充実のための工事を実施致している実情でございます。現地をご覧頂きますれば、この点は、十分ご了解

けるものと確信致しております。最後に、「水俣、芦北地区の住民の一斉検診をやるべきではないか」というご質問にお答え致します。ことは、医学上の問題でありますので、会社といたしましては、何とも申し兼ねる問題でございます。